

PLAN NEWS

プラン・ニュース [2024 Summer] NO. 126

特集

SRHRってなあに？

プラン・スポンサーシップ

チャイルド訪問

(セネガル)

プラン・グローバルサポーター

基礎学力をつけて

なりたい自分に

なれるように

(グアテマラ)



男女一緒にSRHRについて学ぶ(ラオス)

途上国ではさまざまな事情で、生理中に安全・衛生的に過ごせない場合が多くあります。生理用品が手に入らない、学校に女子トイレがない、偏見や迷信により生理中の行動が制限されるなどです。その結果、教育を継続できず自立の道を失ったり、不衛生な環境で感染症のリスクが高まったりします。プランは生理用品の配布や施設整備への支援のほか、啓発活動を通じて、生理中でも安全で衛生的な環境づくりを目指す「月経衛生管理」の大切さを伝えています。



FGMの問題について、影響力のある地域のリーダーとともに活動(ケニア)

大人の女性になるための通過儀礼などの理由で、世界30カ国で2億人が経験しているといわれています。施術は不衛生な環境で行われることも多く、命を落とす危険もあるほか、生涯にわたる後遺症や心の傷として残ることもあります。FGMを違法とする国は増えているものの、「みんなやっているから」などの理由で続いています。長年の慣習を変えるには地域の規範を変える必要があるため、プランはさまざまな立場の人へのアプローチを行っています。



女の子クラブで作った「早すぎる結婚」の問題を伝えるイラスト(ネパール)

世界では約5人に1人の女の子が18歳未満で結婚しています。例えば、モザンビークでは2019年に18歳未満の児童婚が禁じられたものの、ユニセフによると53%の女の子が18歳未満で結婚しています。児童婚により中途退学を強いられ、早すぎる妊娠・出産により後遺症や死に至るリスクもあります。プランは子どもの権利を学ぶユース・クラブの設立や、親や地域の大人たち、国や行政への働きかけなどを通じて多面的な活動を行っています。

世界の課題

生理

女性性器切除 (FGM)

早すぎる結婚 (児童婚)

特集 SRHRってなあに？

最近よく聞くワード“SRHR”。

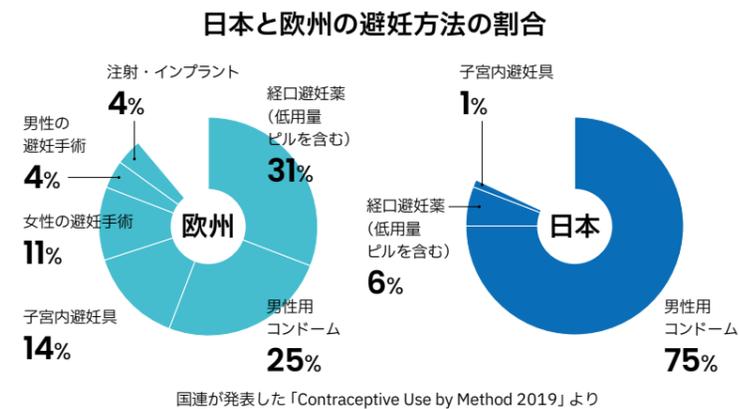
日本語では「性と生殖に関する健康と権利」という意味で、内閣府や多くの自治体でも使われるようになってきました。すべての人は自分の性 (Sexual) や出産などの生殖 (Reproductive) における健康状態 (Health) に関して、自分で決定する権利 (Rights) があります。



SRHRって具体的にどんなこと？

- 自分のセクシュアリティについて自由に定義できること
- 性的な行動をとるか否か、その時期を自分で決められること
- 自由に性のパートナーを選べること
- 性体験が安全で満ち足りたものであること
- いつ、誰と結婚するか、しないかを選べること
- いつ、どのように子どもを持つか、持たないかを選べること
- 上記に関して必要な情報やサービスを得られ、差別や強制、暴力を受けないこと

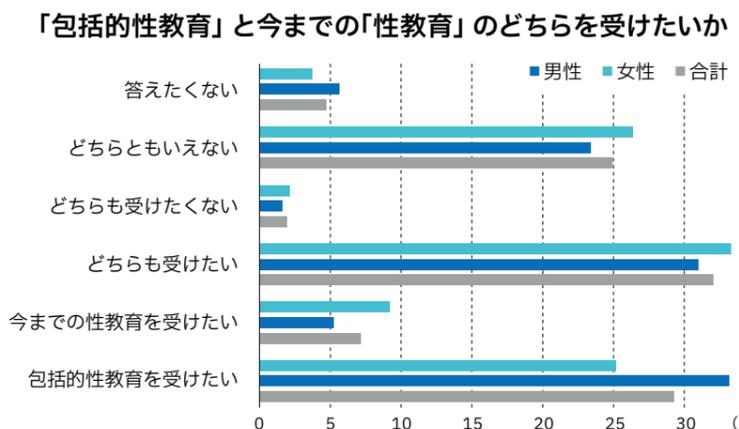
(出典：プラン・インターナショナル「思春期における性と生殖に関する健康と権利(SRHR)」2023年)



日本の課題

包括的性教育の必要性

厚生労働省が発表した日本の人工妊娠中絶件数は、約12万2,000件を超え(2022年度)、そのうち24歳未満の中絶件数は全体の約3割です。これは欧米と比較して避妊法の選択肢が少なかったり、正しい知識を得たり、日常的に性教育に触れられる機会



が少なくことも一因です。プラン・ユースグループが2021年に15歳〜19歳の男女を対象に実施した調査では、学校で「包括的性教育を受けたい」「これまでの性教育と包括的性教育のどちらをも受けたい」と回答している若者が6割以上でした。プランは、学校での包括的性教育の推進を文部科学省に提言しています。

プランの新しい発信 “Girl’s Lab”

プランが活動する地域ではSRHRに関わるさまざまな課題があり、その解決とジェンダー平等の実現にむけて活動を続けています。まだプランをご存じない方や、こうした問題にあまり関心がない方にも、自分ごととして問題を分かりやすく理解していただくことを目的に、今年6月のウェブサイトリニューアルにあわせて、“Girl’s Lab”のページを追加しました。

「からだのこと」「こころのこと」「社会のこと」など、特に女の子や若い女性に知ってほしいテーマの記事や専門家インタビューなどを随時更新していきます。



Girl's Labのページはこちらから



※1. ユネスコの定義では「妊娠、避妊、性感染症という限定的な生殖教育だけでなく、人間の尊厳や他人を尊重することなどを網羅的に学習するための教育」



生理ナプキンの使い方を男女一緒に学ぶ子どもたち

プロジェクトについてどう思う？



ソムキットさん(32歳 教員)

私たち教員も生理について生徒に話しやすくなりました。プロジェクトで生理用ナプキンが支給された際は全校集会でアナウンスしています。今では生徒たちは生理を恥ずかしくありません。生徒クラブの活動を通じて、リーダーシップも身につけてきていると思います。



ノイさん(13歳 中2)

プランのプロジェクトに参加する前は、人前に立つことができませんでしたが、今は大勢の前で生理ナプキンの正しいつけ方のデモンストレーションもできるようになり、SRHRに関することも友達と話しています。



このプロジェクトは、外務省(NGO連携無償資金協力)の支援のもと実施します。詳細はウェブサイトをご覧ください

ご支援方法の名称が変わりました!

2024年6月より、「ガールズ・プロジェクト」と「グローバル・プロジェクト」を「プラン・グローバルサポーター」として一本化したしました。詳しくはP14のInformationをご覧ください。

現地担当者からのメッセージ

大人たちの意識改革に精力的に取り組みます

チャントノム・サンガフォン 職員 (包括的性教育/生徒クラブ担当)

生徒クラブのメンバーが、大勢の前で生理に関する寸劇やスピーチを堂々とする姿を見て誇らしく思います。子どもたちにとって、生理はもう恥ずかしいことではありません。生徒クラブの活動のおかげで、子どもたちは、思春期の心と体の変化について楽しく学び、自分を大切にすることを学べます。私たちの取り組みに、引き続き日本の皆さまのお力を貸していただけることを願っています。



ラオス

「女の子の衛生改善」プロジェクト

プラン・インターナショナルは、SRHR(性と生殖に関する健康と権利)に関する様々な活動を行っています。2023年3月からラオスで実施しているプロジェクトについてご報告します。



生徒クラブによる保護者向けの啓発活動

生理のタブーを打ち破る

ウドムサイ県は少数民族が大半を占める山岳地域にあり、自宅で安全な水を使える人の割合は全国最下位です。プランは小中学校30校を対象に、水と衛生設備の建設・修繕や、子どもたちの衛生習慣の改善を支援しています。

また、ラオスでは生理について話すことがタブーとされており「生理についてよく知らなかった」「母親にも相談しにくい」と話す女の子たちも少なくありません。こうしたタブーをなくすため、プランが設立し、

運営を支援している「生徒クラブ」では、男女一緒に生理ナプキンの正しい使い方を学び、寸劇などを通じて理解を促しました。最初は恥ずかしかったり、からかったりする声もありましたが、活動を繰り返すうちにそうした声はなくなりました。

今後は、生理だけでなく、ジェンダー平等や思春期の心と体に関する幅広い知識を子どもたちが楽しみながら学べるよう、生徒クラブの支援を強化していきます。そして、子どもたちが中心となり、地域の大人たちの意識をも変えていくことを目指します。

ラオスってどんな国？

東南アジアの内陸部に位置するラオスは1953年にフランスから独立。近年は都市部を中心に徐々に経済成長を遂げていますが、一方で少数民族が多く暮らすコミュニティや山岳地域では貧困や教育格差などの深刻な問題が残っています。



完成した学校トイレの前で、プランが提供したお揃いのTシャツを着る子どもたち

性に関する子どもたちの意識の変化

(「そう思う」と回答した子どもの割合)

	プロジェクト前	1年後
生理中でも学校にいけないようになるべきだ	56%	91%
学校で性について学ぶ機会があるべきだ	81%	97%
未婚の女の子でも避妊具を持つことは尊重されるべきだ	38%	78%
結婚後も女性が性行為にNOという権利がある	56%	85%

主な活動

- 水と衛生設備の建設・修繕 (小学校24校、中学校6校)
- SRHRをテーマとした教員研修 (延べ342人)
- プランが開発した補助教材、衛生用品の配布
- 子どもたちが主体となった啓発活動 (延べ2,700人)

illustration by Noriyuki Goto



グアテマラ

「先住民族の小学校教育」プロジェクト 基礎学力をつけて なりたい自分になれるように

プラン・インターナショナルは、2024年3月からグアテマラのキチエ県において、先住民族の子どもたちが学ぶ小学校の教育改善を目指すプロジェクトを開始しました。子どもたちが学びをあきらめず、教育を続けられるような環境を整えていきます。

グアテマラのプラン職員であるアンヘラは、キチエ県の活動地域を担当しています。アンヘラはキチエ県の小学校就学率は91%なのに中学校になると26%になること、そして学年が上がるにつれて児童数が減っている現状を何とかしたいと思っていました。



先生たちに話を聞くと、読み書きや計算といった基礎学力を身につけないまま、学校に来なくなる生徒が多いということでした。先生たちも、その状況をどうしていいかわからず、途方に暮れていました。



次にアンヘラは家庭訪問を開始しました。小学5年生のロンディは勉強が大好きな女の子で、進学してデザイナーになりたいという夢をもっています。ロンディは7人きょうだいですが、誰も中学校には進学しておらず、父親の畑仕事や家事を手伝っています。両親はロンディもほかのきょうだいと同じでいいと思っていました。



そこでアンヘラは、中学校に進級できないのは仕方がないという認識を変えるため、保護者を対象にしたワークショップを立ち上げました。また、子どもたちが算数に苦手意識をもたないような教え方を先生に伝授するほか、先生たちが一人で悩まないようネットワークを作りました。

また、たくさん本を読む習慣を身につけてほしいと、図書コーナーを設置することにした。本が好きなアンヘラは、本の持つ力を信じています。「たくさん本を読んで、表現力や想像力を養い、なりたい自分を実現してほしい。」アンヘラの願いです。



プラン・グローバルサポーターのご支援をお願いいたします

● 子どもたちに学ぶ喜びを
「先住民族の小学校教育」プロジェクト (グアテマラ)

※このプロジェクトは、外務省(NGO連携無償資金協力)の支援のもと実施しています。日本人職員が現地に赴任し事業統括を行っています。



詳細はこちら

子どもたちの未来に役立つプロジェクトです

解説：現地事務所長 アンヘラ・ポル職員



日本の皆さま、こんにちは。私が住むグアテマラのキチエ県は、先住民族のキチエ族が住む地域です。この地域では、子どもが6~7人いる家庭も多く、子どもたちの多くは小学校を終えると、家の働き手として家事をしたり、町に働きに行ったりします。また、近年はアメリカへの不法入国を試みる若者たちも増えています。

そのような状況を少しでも改善するため、私たちは役所や教育省など行政機関と連携し、活動しています。皆さまからのご支援を最大限活用し、少しでも子どもたちの未来に役立てられるよう、引き続き活動していきます。日本からの温かいご支援に、心から感謝申し上げます。



「幼稚園に通うために片道10Km以上を歩く人もいる」と聞きました。他にも色々な課題があると思うので、今後も現状について学んでいきたいです」



アフリカ・エコレースで見事、ゴールに。5年の歳月をかけて準備したそう



セネガルのプラン職員と一緒に

コミュニティ訪問の詳細はこちらから

コミュニティ訪問の詳細は、右のQRコードからウェブサイトをご確認のうえ申し込みください。



あなたもプラン・スポンサーシップを通じてチャイルドと交流しませんか？

遠い国からチャイルドを見守ってくださるスポンサーの方を募集しています。詳細は右のQRコードから。



夢を追う姿を見せたい

今回のチャイルド訪問は、「アフリカ・エコレース」に参加したことがきっかけです。学生時代から途上国の問題に関心があった、プラン・インターナショナル主催の勉強会などに参加していました。レースでセネガルに行くことになり、セネガルの子どもを支援したいとプランに相談して、プラン・スポンサーシップを始めることになったのです。サハラ砂漠などを走り抜け、セネガルの

いねいに説明くださったこともよかったです。そして、職員のみさんがチャイルド一人ひとりを気にかけて、とても明るく使命感を持って仕事をされている姿に深い感銘を受けました。

首都ダカールの海岸を走ってゴールしました。チャイルドの村を訪ねたとき、村の長が地域の方たちに、私がラリーに出場したことを話してくれたことがうれしかったです。

バイク好きの父親の影響で、大学進学後に二輪の免許を取得しました。レースにはずっと興味がありました。が、「バイクは危ないし女の子だから」と、約10年間もレース出場をためらっていました。レースを終えて強く感じるのは、周囲の目を気にせず自分の情熱に従って進むことの大切さ。男の子でも女の子でも、自分が追求するものを信じて突き進んでほしいです。私は自分の行動を通じて、チャイルドや世界の子どもたちに、夢を追いつめる勇気と決意を示していきたいです。

レース完走の夢をかなえたライダーがチャイルドを訪問
周囲の目を気にせず夢を追いかけてほしい

今年、約5,900キロを駆け抜ける過酷な「アフリカ・エコレース」を完走したことで注目を集めた、ライダーの田中愛生さん。スポンサー(*)として、レース後にセネガルのチャイルドを訪ねた様子をお伝えします。

※「プラン・スポンサーシップ」でチャイルド(プランの活動地域で、地域の人々を代表する子ども)と交流する支援者のことを「スポンサー」と呼んでいます。



レース中にサハラ砂漠にて



ルガ活動地域について

プランは1982年からセネガルで活動を開始。ルガ活動地域のチャイルドの数は約7,000人、うち約170人が日本のスポンサーを持つチャイルドです。この地域は結核患者が多く、2023年は結核症状のある1,556人を医療施設に紹介しました。また、妊産婦の死亡率削減を目指し、医療従事者と協力してシステムや設備の改善と、看護師と助産師の再教育を行っています。



田中さんとチャイルドのモワッサさん。田中さんは渡航の1年ほど前にプラン・スポンサーシップを開始し、2回ほど手紙を交換していました

音楽やお揃いの服で歓迎

チャイルドに初めて会ったときの印象は、シャイで可愛い男の子。最初はもじもじして打ち解けるのに時間がかかったところが6歳の子どもらしくて、素直な反応が見られたのがうれしかったです。プラン・スポンサーシップがきっかけでくれた縁で、遠く離れたセネガルに住む男の子に会いに行くというのは不思議でしたしワクワクする体験でした。

集会所では、村の皆さんが総出で音楽を奏でて歓迎してくださいました。その音楽はエネルギッシュでこれまで聞いたことのないリズムが新鮮で、驚かされました。チャイルドの家族や地域の方々が笑顔で迎えてくれ、その場にいた全員でダンスを楽しんだのは心に残る思い出です。貴重な現地のお茶やナッツ、そしてチャイルドとお揃いの生地で作った服をプレゼントしていただいて、感激しました。

渡航には色々不安がありました。でも、セネガルにあるプランの事務所に着くと、まず最初にセキュリティについての説明があり、訪問者と子どもたちの安全を第一に考えてくださっていることが伝わって安心できました。国や文化の違いを

格差のない平和な社会を目指す道標として支援を続けたい

Y.Yさん

2018年に、ベトナムの学校建設プロジェクトを支援しました。完成した校舎を見るために渡航を計画していましたが、コロナ禍のため延期となり、今年の3月ようやく訪問が実現しました。初日に訪れたベトナム中部では、私の支援先ではありませんが、プラン・インターナショナルが関わる幼稚園を訪問させていただきました。工作の授業を見学し、作品をお土産にいた

歌や踊りで子どもたちとかけがえのない時間を



支援した小学校では、教室や運動場の整備、給水設備の修繕、手洗いの建設などに支援金が充てられました

2018年に、ベトナムの学校建設プロジェクトを支援しました。完成した校舎を見るために渡航を計画していましたが、コロナ禍のため延期となり、今年の3月ようやく訪問が実現しました。初日に訪れたベトナム中部では、私の支援先ではありませんが、プラン・インターナショナルが関わる幼稚園を訪問させていただきました。工作の授業を見学し、作品をお土産にいた

現地を訪れたからこそ発見したことも多い



(上)お土産の手作りコマで遊ぶ子どもたち。縄跳びや文房具もプレゼントしました(下)木の絵が描かれた校舎の壁に、先生方や学校関係者、プランのスタッフとともに支援者が手形を押しました。カラフルな手形の花を咲かせ、それぞれの名前も添えました

ききました。帰国後、も大切にしています。印象的だったのは、建物にトイレがなく、教室も足りないの3カ所に分かれて幼稚園を運営していたことです。今後も支援が必要だと感じました。次に、支援させていただいた小学校を訪問しました。整備された校門を抜けると、子どもたちが校庭に集っていました。黄色のきれいな校舎から、大切に使われている様子が伝わってきました。校庭での学校行事に来賓として参加し、ダンスや大縄跳びで交流したことは、よい思い出です。完成した学校で全学年が行事に参加できた喜びを、現地の人々とともに分かち合うことができ、素晴らしい訪問になりました。

ののだと思います。オーダーメイド・プロジェクトを通して感じられる「誰かの役に立てる喜び」が、自分の生きる力になります。帰国後、いつかまた訪問できるように成長したいと、新たな目標に向かって歩み始めています。人生の視野が広がり、支援する前より自分が豊かになっていることに感謝する日々です。支援は、他界した祖母の願いでもありました。オーダーメイド・プロジェクトで完成した幼稚園や小学校は、大切な家族やお世話になった友人への報恩の証であり、格差のない平和な未来を目指す道標になっています。

PLAN MOVEMENT

国際ICTガールズ・デーに学生向けイベントを開催

社会を変えていく取り組み PLAN MOVEMENT

プラン・インターナショナルは、2024年4月25日の国際ICTガールズ・デーに、「リケジョなんて言葉がなくなる日まで」と題してイベントを開催しました。これは、今年3月に始動した、ジェンダー平等な社会を実現するために、ともに社会を変えていく取り組み「PLAN MOVEMENT」の一環として実施したものです。

高校生・大学生を中心に70名が参加

ICTエンジニアに占める女性比率がOECD加盟38カ国の中で22位という日本の状況や、4人に1人が進路決定にジェンダー・ステレオタイプが影響していると回答したプランの調査があります。今回のイベントは、女性が自らの選択で仕事を選び



企業によるトークセッション



タレントの丸山礼さん

能力を発揮するためのヒントを考えることを目的に開催しました。当日は、高校生・大学生を中心に約70名が参加し、オープニングトークには、タレントの丸山礼さんが登壇。「自らの人生を自分自身で選択することで、最終的には人生を後悔なく突き進むことができる」と、参加した学生の皆さんが一步を踏み出せるような力強いメッセージをくださいました。

文系・理系問わず ICT企業にチャレンジ

また、企業によるトークセッションには、ICT関連企業のアドビ株式会社と日本オラクル株式会社のほか、高校生・大学生向けに情報を発信している株式会社マイナビが登壇。文系・理系を問わずICT企業に就職しキャリアを形成するためのコツや、職業を選択するうえで大切にすべきことなど、社会の先輩としての貴重なアドバイスを語りました。また、参加者はアドビ株式会社提供の最新画像生成AIを駆使し、シンブルな言葉で想像を超える新しいコンテンツ

PLAN MOVEMENT PARTNERを募集します

「PLAN MOVEMENT」では、プランがパートナー企業とともに、多くの人たちに気づきをもたらすための新しい形の参加型イベントを展開します。今回は、10月11日の国際ガールズ・デーに女の子のリーダーシップを推進するイベントを企画しています。ご関心のある企業および個人事業主の方は、ぜひウェブサイトをご覧のうえご連絡ください。



PLAN MOVEMENTの詳細はこちら お問い合わせ: hello@plan-international.jp



「ジェンダーもやもや、燃やそう！」 4コマ漫画展示会を開催



「ジェンダーもやもや」4コマ漫画

アルテイシアさん
(左から3番目)
とユースグループメンバー

こんにちは。プラン・ユースグループのいどうです。ユースグループでは、ユース世代が抱くジェンダーに関する違和感を4コマ漫画にしたパネル展示会「ジェンダーもやもや、燃やそう！」を、4月8日から、明治学院大学、聖心女子大学、東京大学にて開催しました。この企画は、約160人のユースの「ジェンダーもやもや」体験エピソードを募集し、そのなかから10作品を選び、4コマ漫画を制作して展示したものです。最終日となる5月18日には、作家のアルテイシアさんをお招きして聖心女子大学とオンラインのハイブリットで「もやもやト

クイイベント」を開催しました。展示会・トークイベントには250名以上の方にご参加いただきました。

今回の企画は、今まで以上に積極的にジェンダー問題について発信していくためにどうしたら良いかを1年近く検討し、開催に至りました。無事に最終日まで終わられて大きな達成感を感じています。特に聖心女子大学でのトークイベントでは、お仕事をされている年代の参加者が多く、ディスカッションでは、個人的な経験を含むさまざまなジェンダーに関するもやもやを共有してくださり、私自身大きな学びになりました。そして、ア



ルテイシアさんの力強い講演にも励まされた時間となりました。

今回のイベントを通して、改めてジェンダー問題を語る必要性を実感し、今後のユースグループの活動への活力となったと感じています。



レポートは
こちら



日本版「ガールズ・レポート2024」を発表

プラン・インターナショナルは、2024年6月、「ガールズ・レポート2024～女の子・ユース女性が声を発するために必要なこと～」を発表しました。これは日本の女の子・ユース女性が家庭、学校、地域社会で感じた違和感や拒否感について意見を発しようとする際に、何が障壁となるかを、20歳の女性

1000人へのアンケート調査や座談会、専門家インタビューなどから考察したものです。

本レポートでは、主に「子どもの意見表明権」「意見を言う場と大人の存在」「ジェンダー平等」について考察しました。そのなかで、女の子・ユース女性が声を発するためには、彼らへの働きかけだけでなく、

むしろ大人や社会が変わっていくことの必要性が強調されました。女の子・ユース女性が声を発することは、すべての人の声が聴かれ、誰一人取り残されない世界の実現につながるものです。本レポートが、そのための議論をより活発化させ、多様なアクターの協働を推進するきっかけとなることを願っています。

子どもたちが自らの選択で 人生を決められる未来に

ラオスに駐在し、P4-5でご紹介した「女の子の衛生改善」プロジェクトを担当する水上職員の仕事を紹介します。

子どもの権利や女の子の平等について興味を持ち始めたのは、中学生のときです。『生きながら火に焼かれて』(著:スアド)を読み、結婚前に恋人がいるだけで、家族に殺されてしまう女の子がいるという事実に涙が止まりませんでした。20歳の時に訪問したケニアでは、女性性器切除(FGM)から逃げてきた女の子たちと出会いました。「勉強を続けたいから、命懸けで村から裸足で走ってきた」と耳にし、世界中の女の子が、自分で人生を決められる未来に貢献したいと思うようになりました。そんなとき、電車で見かけたプラン・インターナショナルの広告が印象的で、

約3年前にプランに入局しました。現在駐在しているラオスでは、優しくお茶目なチームメンバーに恵まれています。プロジェクトへの高いモチベーション、そして笑顔で頑張る姿に学びが多いと感じています。プロジェクトでは、当初、コミュニティの人々が忙しくて活動への参加状況が課題とされていたのですが、子どもたちの発表会には会場に入れなほどの人々が駆け付けた時にはラオスの人々の親心を実感しました。また、子どもたちの前向きな変化を目の前で見られるのも、駐在員としての幸せです。「生理について堂々と話せるようになった」「生理で困



今回紹介する人
プログラム部 水上友理恵 職員

ている友達にナプキンを渡して助けた」と生徒から聞き、活動の成果を感じています。

子どもたちはみんな、力を持っています。プランの支援でその力が開花し、ひいては地域全体の意識や行動の変化につながるように、今後もプロジェクトを通じて貢献していきたいと思っています。

水上職員のある一日

<p>6:00-7:30</p> <p>起床。朝食にカオピヤック(米粉麺)をとり、首都ビエンチャンへ移動。</p>	<p>8:00-10:30</p> <p>首都から約500キロ離れた活動地域のウドムサイ県まで、高速鉄道に乗れば2時間半。</p>	<p>10:30-12:00</p> <p>活動地域は山岳地帯が多く、未舗装なのでほこ道を車で移動。</p> 
<p>12:00-13:00</p> <p>教員が用意してくれた昼食を政府職員とプランの職員と囲む。たけのこのスープ、野菜と焼き魚。ラオス料理は美味しい!</p> 	<p>13:00-15:00</p> <p>活動のモニタリングで発表会を見学し、子どもたちや担当教員にインタビュー。プロジェクトへの意見をヒアリングして次の活動に役立てます。</p> 	
<p>15:00-16:00</p> <p>建設中の水と衛生設備の視察。建設の進捗や、プランのセーフガーディングに照らして、学校トイレと手洗いの現場の安全性をチェック。</p>	<p>16:00-18:00</p> <p>日が落ちる前に、宿泊所まで車で移動。安全上、18時以降は車で移動できないことになっているので、時間厳守。</p>	<p>18:00-19:00</p> <p>活動地は外食できる場所がないこともあります。宿泊所の外で火を起し、市場で買った食材を温めます。</p> 
		<p>20:00-23:00</p> <p>メールチェック、書類作成を済ませ、シャワー、就寝。お湯が出ないことにも慣れ、お湯を沸かしてかけ湯をします。</p>

緊急支援へのご協力をありがとうございました

プラン・インターナショナルは、2024年5月末までに2つの緊急支援の寄付募集を行いました。

「ガザ・中東人道危機緊急支援」には、1,700万円以上、「令和6年能登半島地震緊急支援」には2,100万円以上のご寄付をいただきました。皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。

「ガザ・中東人道危機緊急支援」では2023年末からエジプト赤新月社と連携し、食料セットと救急キット各600

セット、1600本の水を調達したほか、ガザ地区中部の都市の3つの国内避難民キャンプにおいて、子どもたちや家族に温かい食事6000食を提供するなどの支援活動を行いました。

「令和6年能登半島地震緊急支援」では特定非営利活動法人バルビーとの連携のもと、輪島市で衛生用品や飲料水、お茶、スキンケア用品などの物資支給をしたほか、七尾市の認定こども園7カ所に物資を支給するなどの支援活動をしました。



ガザ地区中部の国内避難民キャンプで、温かい食事を提供

寄付募集は終了しましたが、支援活動は引き続き行ってまいります。最新情報はウェブサイトやSNSで順次ご報告いたします。

2024年7月から、ACジャパンの支援による新たな広告がスタート!

今年も、「2024年度ACジャパン支援キャンペーン」に選出されました。今後1年間にわたり、テレビや新聞、ラジオ、雑誌、交通機関の無償広告枠にて広告展開されます。

今年のテーマは「救われた人は、救う人になる。」です。ウガンダで児童婚をさせられそうになっていた元チャイルドの実話をもとにしたストーリーです。学

校に行くことで夢を持つことができた彼女は、今では教師になって子どもたちの夢を応援する人になりました。今回の広告では、イラストをアニメーション作家のTEZO DON LEEさん、ナレーションを俳優の有村架純さんがご担当くださいました。この広告を通して、多くの方々がプランの活動にご関心を寄せてくださることを願っています。



あなたも参加しませんか?

プラン支援者の会からイベント開催のお知らせ

🌐ウェブサイト 📘フェイスブック
上記アイコンのある会については、下のQRコードをご確認ください

■支援者の会に関するお問い合わせ先:
プラン・インターナショナル支援者の会担当
Mail: P-kai@plan-international.jp



プラン支援者の会については
こちらから

プラン多摩の会 📘

国際ガールズ・デーに関する職員報告会(予定)

- 日時: 10月19日(土)14時30分~17時(14時受付開始)
- 会場: 立川市子ども未来センター
201会議室(立川市錦町3丁目2番26号)
- 内容: 職員報告会(国際ガールズ・デー関連)
- 参加費: 無料
- 申し込み: 不要
- 連絡先: 矢島 Mail:tama-web3@ngo-npo.org

プラン名古屋の会 📘

ワールド・コラボ・フェスタ2024インNagoya

- 日時: 10月26日(土)、27日(日)10時~17時
- 会場: オアシス21・銀河の広場
(名古屋市東区東桜1-11-1)
- 内容: ブース参加(予定)。会場運営のお手伝いを募集します。来場者にプランの説明をしたり、物販の販売をします。希望者は以下の連絡先にメールでご連絡ください。
- 参加費: 無料
- 申し込み: 不要
- 連絡先: 久世 Mail:plan.nagoya.party@gmail.com
電話: 080-6952-3170
※上記以外にも、チャイルド訪問報告会などのイベントを企画中です。登録者にはメールでご連絡します。

プラン・奈良の会 📘

ミャンマー料理教室

- 日時: 11月中旬の日曜日(予定)
- 会場: 生駒市北コミュニティセンター 調理室(予定)
- 内容: ミャンマー料理教室
- 参加費: 1,000円(予定)
- 定員: 約20名 ※奈良の会の会員を優先いたします。
- 申し込み: 要
- 連絡先: プラン・奈良の会 富山

ご支援方法の名称が変わりました! 「プラン・グローバルサポーター」のご案内 (旧ガールズ・プロジェクト/グローバル・プロジェクト)

プラン・インターナショナルは、2024年6月より“Until we are all equal”という新しいメッセージのもと、誰もが平等な世界の実現にむけ、女の子を含むすべての子どもたちにとって公平な社会を築くために活動を展開していきます。それに合わせて、女の子の課題に取り組む「ガールズ・プロジェクト」、気候変動や難民などの子どもたちが直面している世界の課題に取り組む「グローバル・プロジェクト」の2種類の支援方法を「プラン・グローバルサポーター」として一本化したしました。

ご支援方法の名称は変わりますが、実施する各々のプロジェクトの内容に変更はなく、一つひとつのプロジェクトはこれまで通り、子どもや女の子たちが直面している不平等を生む原因を明らかにし、その解決にむけ取り組んでまいります。引き続きのご支援とご理解をどうぞよろしくお願いいたします。



2024年秋、マイ・プラン・ページのセキュリティを強化します

プランのウェブサイトにあるご支援者専用のページ【マイ・プラン・ページ(MPP)】が2024年秋頃、皆さま、そしてチャイルドたちの情報保護対策を強化するためリニューアルする予定です。それに伴い、いくつか仕様の変更があります。

リニューアル以降、プラン・スポン

サーシップでチャイルドとお手紙のやりとりをされる場合には、MPPのアカウントを取得し、ログインすることが必要となります。MPPへの新規登録方法、ログインIDの変更方法などは、具体的な日程が決まりましたら改めて皆さまにお知らせいたします。

リニューアルでの変更点

	現在	リニューアル後(予定)
ログインID	SP(スポンサー)番号	メールアドレス
ログインパスワード	6-12文字	・10文字以上 ・数字とアルファベット混ぜる ・アルファベットは大文字小文字を入れる
発行対象者	希望者	メールアドレス登録がある方全員
手紙フォーム	ログイン無しでも利用可	ログイン必須

プラン・ニュースと年次報告書の受け取りを郵送またはオンラインでお選びいただけます

「オンラインか郵送か選択できるようにしてほしい」という声にお応えし、前号より、オンラインご希望の方のお申込を受け付けております。機関誌「プラン・ニュース」と年次報告書の郵送を希望されず、オンラインで閲覧をご希望の場合、QRコードより必要事項をご入力の上、お手続きください。引き続き郵

送でお受け取りご希望の場合は、お手続き不要です。お申込は8月16日(金)まで。

郵送停止のお手続きは
こちらから



プランへの寄付となる
商品・サービスのご紹介

JILL by JILL STUART が今年も寄付付き Tシャツを販売

株式会社TSIは2024年3月~9月の期間、JILL by JILL STUARTから、売り上げの一部がプランに寄付されるTシャツを販売くださっています。4年前から続く取り組みで、今季のテーマは「GLOW WITH SHADE」。輝きや影も併せ持つ、女性のそのままの多面性を応援するメッセージが込められています。日頃のお買い物が寄付や女の子を支援することに繋がって欲しいという想いから生まれた商品です。



今回の対象Tシャツ

詳しくはこちら



ウェブサイトが新しくなりました!



ウェブサイトはこちら
www.plan-international.jp



リニューアルのポイント

1 支援で人と人をつなぐ

プランの活動は子どもたち、ご支援者や企業の皆さま、プランの職員などすべての関係者によって成り立っています。それぞれのストーリーを通じて、活動の意義を伝えるようなコンテンツ作りをしています。

2 新しい発信「Girl's Lab」

女の子たちの心や体の悩み、専門家によるコラムなどを発信する「Girl's Lab」を追加。自分事として考えられるような身近なテーマを取り上げて、より多くの人にプランの活動を知っていただくことを目指しています。

3 知りたい情報がすぐわかる

約7割の方がスマホでウェブサイトを読んでいます。スマホで見やすいレイアウトのほか、知りたい情報にアクセスしやすい設計、ユニバーサルデザインに配慮しました。



マーケティング・コミュニケーション部の佐藤です。
前回のリニューアルから8年が経過し、モバイルでの閲覧利用が増えました。
読みやすいデザインだけではなく、多くの人にとって読みやすく学びになるコンテンツ、
そしてプランの活動のご理解が深まるよう、3つのポイントに重点をおきました。
今後、支援者専用ページ「マイ・プラン・ページ」も変わっていきます。お楽しみに!

プランのSNSをフォローしてください

各国でのプランの活動や子どもたちの様子、事務局の日々のあれこれを発信中!



※「国際NGOプラン・インターナショナル」で検索してください。



表紙写真ストーリー

写真はトーゴの3世代の女性たち(80歳の祖母、60歳の母、24歳の娘)が、生理について話し合っている様子です。「生理中は食事の支度をすることは許されなかった(祖母)」「私の時代は、生理中に夫以外の男性に接することは禁じられていた(母)」「今は状況が改善して、どんな活動でもできるようになりました(娘)」この80年でSRHRの意識は浸透しています。プランは引き続き、活動を通じてその動きを後押ししていきます。

ご意見、ご感想をお寄せください



プラン・ニュース126号 アンケート

PLAN NEWS

2024 SUMMER NO.126

表紙写真: トーゴ

発行: 2024年6月

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22 サンタワーズセンタービル10F

TEL: 03-5481-6100 FAX: 03-5481-6200

www.plan-international.jp

※ご連絡はウェブサイトの「お問い合わせ」フォームよりお願いいたします。



Until we are all equal